一泉

発行所
〒921
金沢市泉野出町３丁目10-10
石川県立金沢泉丘高校内
一泉同窓会
電話（0762）42－0211
1996．4．10．発行

新役員へバトンタッチ

平成7年度一泉総会と懇親会盛大に
同窓会会則一部改訂

平成７年度の一泉同窓会総会並びに懇親会が、1995（平成７）年10月15日（日）、金沢市香林坊の金沢東急ホテルで盛大に開催された。

総会に先立ち、午後３時から泉丘高校前庭の厳霜碑前で、同窓会役員・会員有志・学校教職員等多数が参列し、物故会員の冥福を祈った。

午後６時からの総会では澁谷亮治会長が「100周年記念事業も無事終り、同窓生の協力に感謝します」と挨拶。1985（昭和60）年以来10年間の会長職を辞し、川北篤氏（一中55期・一高）が、満場一致で新会長に選任された。川北新会長は「伝統ある一泉同窓会のご指名とご賛同を頂き、重責をひしひしと感じます」と就任の挨拶。

引き続き、母校の近況報告と一泉同窓会・一泉基金の収支決算報告、また、同窓会会則の一部改訂が提案され、承認された。これにともない、新役員の承認もなされた。

懇親会は、一泉合唱団による100周年記念歌「明日のＩ」のコーラス、川北会長の挨拶、吉田直茂氏（一中32期）の乾杯で華やかに開宴、和やかな交歓のひとときとなった。柿ノ木太鼓のアトラクション、恒例の校歌・応援歌で盛り上がり、名残り尽きない午後９時、乙村董新副会長（一中55期）の閉会の挨拶があり、同窓会の一層の発展と再会を約して終了した。

７年度は泉丘14・15・23・33期が幹事期となって、会の準備・運営にあたり、参加は350名。前日までに400名以上の参加申込があったものの、欠席者が多く、1986（昭和61）年に幹事制を導入して以来、初めて懇親会は赤字となった。1996（平成８）年10月15日（火）の総会と懇親会は泉丘15・16・24・34期が幹事期となる。

〈新役員の紹介〉

会　長　川北　篤（一中55期・一高）

副会長

乙村　董（一中55期）　浅香以都子（泉丘10期）
蚊谷　八郎（泉丘14期）　小堀　幸穂（泉丘17期）
坪野恵美子（泉丘19期）　岡　能久（泉丘20期）
上山　優（泉丘34期）　村本喜和子（通信29期）

監　事

松村　晴夫（泉丘３期）　奥田　徹（泉丘６期）

相談役

荒川　宏（一中45期）　越馬　平治（一中49期）
米谷　半平（一中50期）　宮　太郎（一中51期）
澁谷　亮治（一中54期）

☆**事務局長**　正村　健三（泉丘４期）

〈一泉同窓会会則〉下線部が改訂事項

第４・５・６条　本会は下記の役員を置く。

①会長　１名　本会を代表し、会務を処理する。

②副会長　若干名　会長を補佐する。

会長に事故あるときは、会長があらかじめ指名した副会長がこれを代行する。

③監事　若干名　本会の会計処理を監査する。

④相談役　若干名　会長の諮問に応ずるとともに、建議する。

役員の任期は２年とする。

役員は、各期ごとに当該期を代表する正会員（以下「代表委員」という）により選出し、総会において承認を得るものとする。

☆各期の常任委員の名称は、代表委員に改称。

ごあいさつ

澁谷亮治
（前会長・一中54期）

本年度総会におきまして、川北篤氏との会長交替をご承認頂きました。

思えば、1985（昭和60）年10月の総会におきまして宮太郎前会長から会長職をお預かりして以来、10年間にわたり、役員、各期委員、会員の皆様の温かいご支援をいただき歩んで参りました。特に100周年記念の大事業におきましては、会員の皆様の多大なご尽力をいただき、感謝の念にたえません。お陰様にて100年の過去から現在へ、現在から永遠の未来にかけての有意義な連結の業を果たすことができました。28,000余の同窓の紐帯はますます強まることでしょう。

私たちの母校泉丘高校は、教育をめぐる困難な諸環境を乗り越えて、前途有為な人材を送り出しております。100周年記念事業の主目標でありました「一泉同窓会基金」は平成6年度に発足し、学校教育活動の一助となりはじめました。この基金の活用は、当面の異常な金融金利の事情もありまして十分なものとは言えません。今後一層の基金の充実を念願してやみません。

これからは、川北新会長のもと、会員相互ますます親睦を深め、発展していかれることを念じてごあいさつとさせて頂きます。

泉丘高校発足50周年を目前にして

一泉同窓会会長　川北篤
（一中55期・一高）

100年以上の年輪を刻んだ一泉同窓会も、泉丘高校となって間もなく50年という節目を迎えようとしている。

私が金沢一中に入学する前年には、一中創立50年の記念行事が行なわれたことを思えば、月日の移り変わりを感じなくてはいられません。

この間28,000余人の卒業生を輩出し、国内外に、又実に幅広い分野に素晴らしい活躍をされている多くの同窓生がおられることを思うとき、あらためて一泉同窓会の偉大さを感じざるを得ません。

昨年10月、澁谷亮治前会長の後任としてご指名を受けてはや半年近く、その重責をひしひしと痛感するこの頃であります。

太平洋戦争が終わり、学制も改革されて金沢一中が終わり、金沢一高を経て泉丘高校が発足しましたが、それぞれの同窓会が、連繋されるべきとして合併し、1955（昭和30）年今日の一泉同窓会が発足したわけであります。当時の泉丘高校長であった山本外吉先生の卓見と、その意向をうけて初代の一泉同窓会長になられた英安吉氏（一中18期）の母校に寄せる熱情に、心から敬意を表したいと存じます。

一泉同窓会は時代の進展に伴い、数多くの輝かしい足跡を残して参りました。

その中でも特筆すべきは、1993（平成5）年に行われた一泉創立100周年の記念事業であろうかと思います。

各期の同窓生の皆様からは、母校に寄せる愛情の証として多くの寄付金をいただきました。

又それぞれの分野で指導的立場にあられる方々が忙しい中を集まり、記念事業に対し実に献身的な活躍をされ、その結果多彩に繰り広げられた諸事業・諸行事は天下に一泉同窓会の盛名を轟かしたものとなりました。

既に21世紀は指呼の間となりましたが、1988（平成10）年には泉丘高校発足50周年（一泉105周年）を迎えます。金沢一中卒業の各位をはじめ、同窓会全員のご理解を賜りながら、この泉丘高校発足50周年を意義あるものとするため、今後とも、いっそうのご協力をお願い申し上げる次第でございます。

人・自然・未来へつなぐ街づくり
MK　村山建設株式会社
代表取締役社長　村山　卓治（泉丘5期）
本　社　〒920 石川県金沢市鱗町102番地
TEL(0762)21—2532　FAX(0762)24—4010

学習と課外活動両立の27名に晴れやかに第２回「一泉賞」表彰式

「一泉同窓会基金」は、21世紀に向けて心豊かな人材の育成と母校の発展に寄与することを目的とし、母校の国際交流の推進と、学術・文化並びにスポーツの振興等のための助成に生かされる。

一泉創立100周年の翌年、1994（平成６）年度を事業の第１期として発足、基金事業の一つとして「一泉賞」が設けられた。

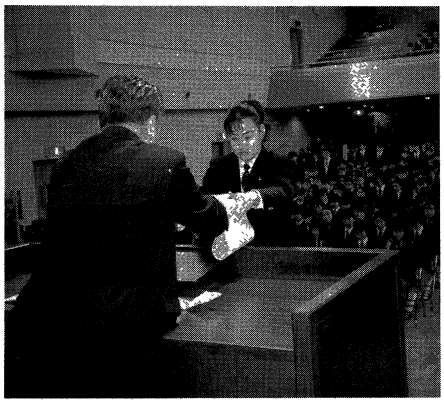
同賞は、一中の「文武両道」と、泉丘の「心身一如の発達につとめる」の校是にそい、３年間を通じて学習と課外活動を両立させた生徒を対象に選考を行い、各人の活躍を称えて贈られる。

第２回に当たる1995（平成７）年度「一泉賞」受賞者は、全日制26名、通信制１名。

表彰式は、1996（平成８）年３月６日および10日（通信制）の卒業証書授与式に先立ち泉丘高校講堂で行われ、川北同窓会長から27名の受賞者に、それぞれ表彰状と記念品が手渡された。

☆第２回「一泉賞」受賞は次の皆さん。

渋川稔（生徒会）、戸野由紀子・奥村信哉・吉田崇裕（ホームルーム活動）、安田貴明（新聞部）、車多完子・狩谷雅子（書道部）、山本典久（合唱部）、村田雅之（吹奏楽部）、羽柴聡（囲碁将棋部）、林高博（放送部）、森幸恵（JRC部）、四七淳（鉄道研究同好会）、中村亜衣・村本倫美（バスケット部）、今村有希絵（バドミントン部）、小森雅子・胡摩博之・宮川聡司・羽田雄一・中林浩太郎・畑賢朗（陸上部）、桶作洋平（野球部）、大田哲也（水泳部）、須田まなみ（ソフトテニス部）、島木政雄（相撲部）石塚文子（通信制・コンクール活動）



＜一泉基金の活動＞

一泉同窓会基金資産および事業内容

平成８年１月31日現在（単位千円）

財産目録	基本財産 百周年記念特別基金 公益信託教育振興基金	 ４０，０００ ５０，０００
	運用財産	４，０９５
	合　計	９４，０９５
平成７年度事業計画	一泉賞（表彰生徒数27名）	４８６
	教育振興・クラブ活動援助事業 地球科学部 放送部 理数科課題研究グループ 剣道部 弓道同好会	 ５０ ５２ ８０ ６０ １３５
	国際交流活動助成事業	１００
	その他助成事業 図書館図書費購入費用 遠征用送迎バス買替積立資金 通信制視聴覚機材購入費用	 １００ ３００ １００
	合　計	１，４６３

一泉同窓会基金の上記事業費に事務費を加えた年間の所要資金は200万円程度が必要ですが、現行の金利水準では、運用収益による事業規模の維持が困難な状態になると予想されます。基金事務局では募金窓口を常時開いて同窓生の皆様からのご協力をお待ちしています。

健康センター
クオレ
RELAX & FITNESS QUELLE
〒921 金沢市伏見台1-6-13 ☎(0762)47-4137

からだ 元気の
お手伝い。

●ダイエットコース
●基礎体力コース
●パワーアップコース

祝　アントワープマラソン
日本代表
恒川香選手（42期）

・西尾　　稔（５期）
・竹沢　敦子（29期）

—平成７年度卒業生諸君へ—

祝　辞

卒業生の皆様ご卒業おめでとうございます。

金沢一中・泉丘28,000有余名の一泉同窓生を代表しまして心からお祝いを申し上げます。

一昨年、本校は100年の齢を祝う記念の式典を挙行し、さらにその場で、次の100年に向けての確固たる発展を誓いました。

我が校の先輩たちの歩みは、今、終りを告げようとしている20世紀の全期間を通じての日本の歩みでもありました。欧米諸国の後を追って、欧米以外で、最初の近代化に成功した日本の茨の道を切り開いた人々の中に、数多くの金沢一中の先輩の姿が見えます。国際社会で、また日本の中央・地方を問わず、政治・経済・科学技術・福祉・文化・芸術・国防・教育など、あらゆる分野で諸先輩が活躍し、社会に貢献致して参りました。

その途次、ポツダム宣言受諾という明治以来の日本の大転換を強いられる変革がありました。しかしながら文武両道に励み、心身を鍛えて、この学校を巣立ち、社会有為な人材として活躍するという金沢一中の輝かしい伝統は、変わることなく、1948年創立の金沢泉丘高等学校にも引き継がれました。

心身一如の発達に努めるという金沢泉丘高等学校の教育方針は、この金沢一中の指針とまさに相い重なるものであります。しかも、このスピリットこそ、激動し、変化する社会の中にあって変わらざるものであります。皆様は、上級の学校や社会で、この一中・泉丘スピリットを生かし成長を遂げて下さるものと信じております。

21世紀には、私たちの目標は、日本のためにというよりは、人類のためにというように拡大します。不信と憎しみを投げ合い、核戦争の不安をあおった半世紀に及ぶ東西対立は終了致しました。しかしながら、地球社会の混沌の闇はいつ果てるともなく続いております。

この状況の中で、勇気と叡智をもって、人類の平和と繁栄の希望の灯火を掲げるのが、若い君達だと信じております。

社会生活のあらゆる分野での公正な倫理、異文化との共存・共生の人類愛、科学技術面での豊かな創造性を、養い磨いていって頂きたいと思います。人生至る所に現われる障害と挫折を乗り越え、新しく建設される社会への荊棘（いばらととげ）の道を切り開いていって欲しいと念じております。

苦しいことがあったら100周年記念歌を思い出して下さい。第３節には次の言葉があります。

歩いてゆこう　明日に向かい
この手で宇宙（夢）を掴もうよ
しみいる静寂　はじける歓声
沸き立ちながらも　漂いつつも
地平にきらめく人がある
人にきらめく意志がある
だからこそ歩いてゆける
明日のＩ・私のために
明日の愛・君の未来に

「明日の愛」この言葉を贈り、私のお祝いの言葉といたします。

平成８年３月６日
一泉同窓会会長　川北　篤

『櫻章校跡地』石碑移転

一泉創立80周年記念（1973年・昭和48）に、『櫻章校跡地』の石碑が本多町公園に隣りあわせた小立野側斜面に設置された。ところが、かねてから、旧本多町校舎で青春を過ごされた一中先輩たちから、石碑の建てられた位置は一中本多町校舎の敷地外であるとして、石碑を一中本多町校舎の敷地内にあたる公園内平地に移転させてほしいという意見があった。

1994（平成６）年秋、石碑付近の斜面崖崩れの補修工事が始まり、折よくクレーン車が入れるようになったので、金沢市と折衝し費用約30万円で1995（平成７）年６月、石碑の移転が完了した。

公園内のどこからでも眺めることができるようになったので好評である。是非足を運んでみて下さい。

Esso エッソ石油特約店　石川米油株式会社

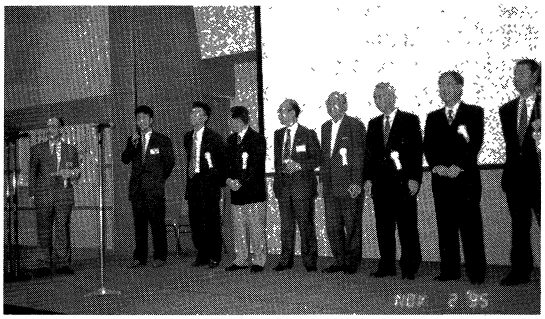
会長　山上　啓介（５期）
社長　山上　公介（30期）

〒920　金沢市神谷内町ニ61　TEL(0762)52－4321　FAX(0762)51－4171

笠舞SS、小立野SS、伏見台SS、内灘SS、泉旭SS、金沢SS、間屋町SS、神谷内SS
野々市SS、金沢90SS、小松SS、湊営業所、敦賀油槽所

思い出の甲子園
関東一泉同窓会平成７年度総会

11月２日（木）、東京大手町のサンケイホールに264名が集い、総会・懇親会が開催された。



河毛二郎（一中43期）関東一泉同窓会長の挨拶に続き、澁谷亮治前会長の後を受けて一泉同窓会会長となった川北篤氏（一中55期・一高）の祝辞、中田修泉丘高校長の代理として足立満教頭の母校近況報告などが行われた。

懇親会では「思い出の甲子園」と題し、スライドを使って大正、昭和の甲子園大会に出場した野球部の活躍が紹介され、参加者一同懐しく当時を振り返った。甲子園出場を果した泉丘16期生が幹事期。

金沢からも当時の応援団長・広瀬靖久氏がかけつけ、藤村治憲氏（泉丘16期）ら応援団員が勢ぞろいして校歌・応援歌を合唱し、母校野球部の甲子園出場への夢ふくらませた。

すばらしい景品の当たるビンゴゲームも行われ、大変和やかな雰囲気のなか会員の健勝を祈念し再会を誓いあって会を終了した。

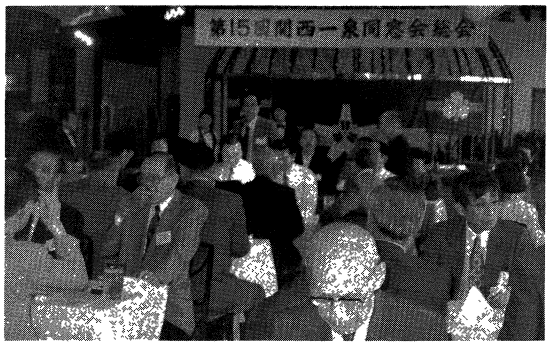
次年度の幹事期は17期である。

（泉丘16期・長村保宏記）

阪神の復興祈念し『六甲おろし』の大合唱
関西一泉同窓会・第15回総会

1995（平成７）年６月３日、関西一泉同窓会第15回総会が大阪市中央区の、大阪城を目の前にしたパノラマビアレストラン・アサヒで開催された。

あいにくの雨にも拘らず、来賓５名をはじめ、同伴を含め113名の会員が集い、旧交を温め楽しいひとときを過ごした。



金沢の一泉本部からは澁谷亮治会長、川北篤次期会長、中田修校長、恩師の清水郁夫先生、正村健三事務局長らが応援に駆けつけ、八十島健二関西一泉会会長（一中41期）が「阪神大震災にめげず、力を合わせて頑張りましょう」と挨拶。

来賓諸氏の、総会開催の祝辞と励ましの言葉が続き、席上、今期で会長を辞任される八十島氏に代わり、関西一泉会次期会長に柚木学氏（関西学院大学学長・一中54期）を満場一致で選任した。

引き続き懇親会では、阪神・神戸の復興を祈念して八十島会長や宮崎欽弥氏（一中54期）の音頭で「六甲おろし」の大合唱を口火に、アコーディオン演奏をバックに、賑やかな青春回帰のひとときになった。最後は一中、泉丘の両校歌を歌って、和気あいあいのうちに一同、来年を約して散会しました。

（泉丘19期・岡谷雄二記）

クイズの賞品はコシヒカリ
松任一泉同窓会

平成７年度松任一泉同窓会総会並びに懇親会は1995年８月12日午後５時半より松任市民会館において開催された。一中OB18人、泉丘OB77人の出席で９時閉会まで和気藹々と進められた。

恒例の講演会は、色彩コーディネータサロン寂静主宰の川崎理幸さんの「私の人生観」で、佐藤栄作元首相の秘書時代の思い出や、日中交流財団での中国の実情を交えた体験談など興味尽きぬ内容であった。

アトラクションのクイズの賞品には、OBが手掛けた100％有機肥料栽培のコシヒカリが提供されるなど、米産地らしい余興であった。最後に、松任市経済を支える企業、金融機関、さらに市役所勤務の者がそれぞれで壇上に上がり、楽しく気勢をあげ、時の経つのも忘れるくらいであった。

保険のデパート（損害・生命・がんまで）

保険のことなら何んでも!!

総合保険特級代理店

浜上保険センター(株)

代表取締役　浜上洋一（泉丘５期）

〒921　金沢市富樫１丁目３番９号 TEL（0762）43—3188㈹

FAX（0762）42—3668

同窓生の集い

【一中35期（昭和３年卒業）三五会】

戦後50年終戦記念日、「あまつぼ」に集まった三五会の面々。第108回月例会は12時前から始まった。

正午を待って黙祷。戦没した会友市川芳男君ら11名を偲ぶ。母校の同窓会事務局から送ってきた『一泉』第23号が皆の手もとに配られる。

ビールが舌をなめらかにして敗戦だ、終戦だ、進駐軍、反省、謝罪と世論を反映した言葉が飛び交う。力が入って時の経つのも暑さも忘れて会は続いた。本日の出席は先月より１名多く、桜井、大滝、大浦、内田、小坂、金岩、結城、篠原、大森の９名。

尚、先月三五会の基金にと熊本市在住の二口重雄君から１万円の送付があったことを書き添えます。（大森玄衆記）

【一中41期（昭和９年卒業）同期生会】

２年の周期で行っている同期生会を、今回「ヤレマヤレマー」の声が多く、1995（平成７）年10月15日（日）片山津温泉「せきや」で開いた。

参加者は、北本一平、重田周蔵、田中喜良、野上彦三、山口社義（関東）　小泉茂吉、野崎外喜男、三浦繁雄、八十島健二（関西）越田章二（中京）飛世弘（富山）青木治郎、伊佐敏男、畝村新一郎、徳山正雄、西田成好、番幸次、藩正喜、水本信明、南秀男（地元）の20名。外に老人グループの健康が心配になって看護婦（？）志摩裕美子を同伴することにした。

集合場所を旧一中本多町公園とし、貸し切りバスで片山津温泉に向かう。杖を突いたヨボヨボ組

や耳の遠い者が多く、どこかの老人会の旅行みたい。何かと世話人の気遣いは大変。

旅館に入って一風呂浴びた後、茶室で午後の茶話会を催し、各人が一中の時の思い出話や、健康管理の話やらが一時間半も続く。

楽しい楽しい宴会ではカラオケ、民謡、踊りまで出て酒も進む。

最後は入歯ガクガク乍ら見事に、“南征の調べ”を歌い上げ、まだまだ元気な桜章健児だった。

尾花咲く　潟のほとりに学友（とも）集い
ダラ話はずみ　早や明けとなる

「２年と言わず、来年もやれヤ」、のみんなの声あり、愈出口が見えてきたアセリ心か。嗚呼。

（南　秀男記）

【一中42期（昭和10年卒業）十桜会総会】

日時　平成７年10月11～12日
場所　山代温泉「ホテル百万石」

毎年恒例の十桜会を今回は観光ツアーをやめて北陸の超一流温泉旅館でゆっくり寛ろぎ、加賀温泉の情緒を充分楽しんでもらう趣向とした。

昨年同様藤田先生ご夫妻を始め、同伴ご夫人を含め総勢43名の出席となった。会場受付で本年度の会誌『十桜』を渡す。総会前約40分間ホテル従

業員に館内の主な見どころを案内してもらい、広大優美な露地と豪華な施設に感嘆する。

開会に先立ち、今年度に急逝された６名の同僚故小鍛治芳二、雄谷重夫、八日市屋二三雄、槻木市郎、寺島与秋、三由文一、諸兄の冥福を黙祷を捧げる。

梶川会長の挨拶、藤田先生より励ましのお言葉をいただき、諸江幹事より経過と会員の動静を報告したが、今年は遂に会員の物故者94名と、現在員80名を大幅に超過した。

続いて祝宴にはいり、豪勢な会席で盃を重ね、

テレビ番組企画・制作・放送技術中継等
CM 企画・制作，企業 PR 用ビデオ企画・制作
KEC 株式会社金沢映像センター
代表取締役社長　魚野孝次郎（泉丘５期・代表委員）
〒920－03　金沢市古府２丁目136番地　テレビ金沢内　TEL（0762）40―9038　FAX（0762）40―7438

談笑の内にも話題はお互いに持病と健康管理が主だったようだ。

終宴後ホテルの「お祭り広場」で特別イベントを観賞し、散会後幹事室に有志集合。二次会で気勢をあげ懐旧談をさかなに秋の夜長を堪能した。

翌朝食時に関西の酒井兄より、阪神震災の在阪諸兄の被災状況と消息について報告あり。関東幹事の古沢兄より地区諸兄の近況と来年の会場について提案があったが幹事一任で来年の再会を約して閉会した。（諸江敏夫記）

出席者（計43名）

藤田誠一先生ご夫妻、吉田道子さん、井口千里さん、石田勝雄夫妻、上島外二、久保木信夫、久保田全俊、鴻野五八夫妻、中谷郁夫、中谷外作、西村忠恭、古沢英雄、山崎太喜男、山本欽一、浅本行雄、柿木義夫、梶川欽一郎夫妻、葛西満、笠間国威夫妻、久間賢三、小泉甚三、駒居三郎、坂本六郎夫妻、柴野勇、杉谷勇、髙木弘幸、髙畠有幸、東勉、舟田一雄、細木忠清、松本芳士、室木弥太郎、諸江敏夫夫妻、八尾孝一、酒井正、二口一雄

【一中49期（昭和17年卒業）同期会】

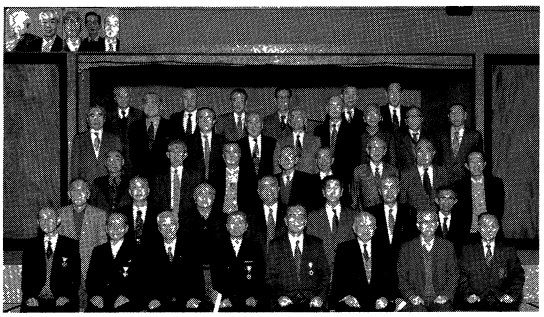
金沢一中49期同期会は、1995（平成７）年11月11日、金沢市尾張町料亭大八において生存者叙勲・褒章者祝賀懇親会を開催した。

生存者129名中、当日40名の出席を得て、叙勲９名、藍綬褒章２名合計11名の栄誉を称えた。

記念品として「勲章・褒章・受賞者顕彰」と銘打った郵便局の「ふみカード」を作成し出席者に配布し、又記念写真の他、記念アルバムにスナップ48枚を貼り各出席者に贈った。

受賞者は、次のみなさん

板倉淳（勲５等）、岡英夫（勲３等）、緒方裕（勲４等）、北川幸三（勲５等）、越馬平治（藍綬褒章）、高見隆（勲４等）、多田安夫（勲４等）、谷久重（勲４等）、釣谷利夫（勲５等）、深田幸雄（勲４等）、南平吉（藍綬褒章）



何れの方も各分野において生涯をかけ名をなされた方々であり、紙幅の関係で各人の業績を披露出来ないのは残念です。特異な業績の岡英夫氏は、大蔵省印刷局貨幣研究所所長として日本の紙幣の製造の第一人者として此の道一筋に歩んだ方です。代表として紹介します。尚、外国より勲章を授与された方、感謝状を戴いた諸兄は別の機会に紙面を飾って頂きます。写真撮影とアルバムは加茂正則氏（泉丘７期）に依頼。（斎藤弥吉記）

【一中50期（昭和18年卒業）50回生の同窓会】

10月１日に、我々50回生は岐阜の犬山ホテルで今年度の同窓会を開いた。出席者は31名。全員古稀を迎えたが、身体の不調により出席不可能な人が多くなってきたのは、残念であった。今回は市野孫之亟兄が幹事として同窓会開催に至るまでの経過を説明し、又常任幹事の西坂兄から欠席者の消息報告等があって、宴会に入った。１年ぶりに再会した諸兄は、お互いの健康を祝すると共に、近況を語りながら盃を交しあった。今回の同窓会では、『時は行くよ』の第２号発行を西坂弥三郎兄から提案があり、これに異議なく可決されたことが収穫であった。又来年の同窓会は関西組が世話をすることになった。最後は太田重雄兄の音頭で一中応援会を歌い会を締めくくった。

翌日は午前中小雨に降られたが、犬山城と如庵庭園を見て、一路明治村に向った。明治村に到着した頃は、幸いにして雨はあがり、夫々思いのままに足を運んで、懐旧の念を抱いて古い建物を見て廻った。なかでも露伴の「蝸牛庵」と西園寺公の「坐漁荘」を拝見出来たのは眼福であった。明治村を見終った頃には、又雨が降り出し全員名古屋駅まで行をともにして、来年の再会を約して

おせんべい店 宇野
〒921 金沢市寺町４－３－１
TEL(0762)43-1433㈹ FAX(0762)42-3360
売店 香林坊大和・名鉄丸越・小松空港・石川県観光物産館・JR金沢駅
社長 宇野明夫（泉丘６期）

夫々帰途についた。　（浅井敏郎記）

〈出席者〉青地、浅井、市野、上田、大岩、太田重、大田博、大森、奥、勝田、川村敏、小中、杉山、高田、高本、橘、中村成、西坂、新田、畠、林、深見、藤野、藤本、藤田、堀、松江、室賀、森、安田建、吉岡。

【一中52期（昭和20年卒業）卒業50年祭】

昭和15年、皇紀2600年に金沢一中に入学。担任は吉野デモ先生、宮沢チャン先生、米田ナマズ先生、東マサ先生でスタート。翌年は大東亜戦争勃発、ある者は幼年学校へ、予科練へ、はたまた陸士、海兵へ、５年生の時は刈谷へ勤労動員とそれぞれの道を歩み、昭和20年卒業の年には終戦を迎え、年号も皇紀から西暦となった、まさに激動の青春時代だった。戦後の耐乏生活を経て、神武、岩戸等々の好景気からバブル崩壊まで戦後史の生き証人として十分通用する人生の共生者であるのが、52期同期生であろうと思われる。

卒業30年に『皇紀と西暦』の記念誌を発行等盛大な記念行事を行なってから10回の懇親会を行なってきたが、1995（平成７）年は丁度卒業50年ということから記念祭をやろうと機運が盛り上がり、８月10日14時に巌霜碑前集合、同期生西野慶秀師、木村昭文師による物故者法要を行った。

夕刻から山代温泉に席を移して県外８人、県内31人が大宴会。旧交を温め談論風発、応援歌の斉唱。宴を終りそれぞれ部屋に別れても深更まで語り合った。翌日は早朝からのゴルフ組もあり、それぞれ再会を約して散会する。（杉山武一記）

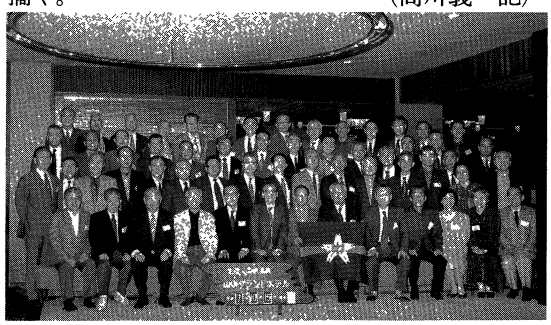
〈参加者〉池田茂樹、池野昭二、石谷伊佐美、泉和男、宇野美雄、上野達郎、卯西鉄男、沖崎一男、笠松佳吉、北市省三、北野大輔、木村昭文、桑原清、小牧愛彦、駒井剛、駒谷良則、斉藤忠夫、佐藤弘、白川義昭、新蔵実、新保卓而、杉山武一、角野進吾、田中雅夫、田辺英五郎、田辺建雄、伊達正夫、津田与志雄、鶴島雪嶺、塚岸昭二、寺窪三郎、中田三郎、中瀬真一、中野他喜夫、西野慶秀、西野貞雄、藤岡昭男、松田利三、前川良二、三谷磯彦、宮本和衛、村田元雄、松永幸男、柳沢千吉、山崎昭、山田一雄、吉田金次郎、吉本明

【一中53期（昭和20年卒業）五三の会卒業50周年記念同窓会】

われわれ53期生は1945（昭和20）年３月、太平洋戦争が熾烈を極める中、全員４年で繰り上げ卒業した唯一の学年である。以来50年の歳月は流れ、1995（平成７）年10月15日、母校の創立記念日に合わせて、山中グランドホテルで、その記念の集いを開いた。懇親会に先立ち、全員で献花、黙祷して、物故会員33名の冥福を祈った。出席者紹介、記念撮影、小憩、入浴の後祝宴に入った。

今回は60名（同伴５名を含む）の参加があったが、札幌から永らく消息の分からなかった山田辰夫君が、長崎から東六郎（沖浦）君が50年振りで出席してくれた。そのほか、榊原廣君、広松秀昭君、土居崎博君など珍しい顔もあり、にわかに名前の思い浮かばない顔も多く、さすがに50年の年輪の重みを感じた。しかし、杯を酌み交わすうち、「わりゃ、おまんな……」と金沢弁がとびかう頃には、すっかり、一中時代の悪餓鬼になっているから、同窓会は面白い。最後は応援歌、校歌を斉唱して宴を閉じた。部屋にもどってからも、当日受付で頒布した記念誌『荊棘を拓いて五十年』を開いて、昔日を偲び、夜のふけるのを忘れて語り合った。参加された会員の思いはそれぞれであろうが、今日の一会を深く心に刻まれたことと思う。

翌朝は、松村久雄君の手製の茶碗で、お薄を一服、といった粋なはからいもあり、終始和やかな雰囲気であった。世話人各位の労に感謝して筆を擱く。　（高川義一記）



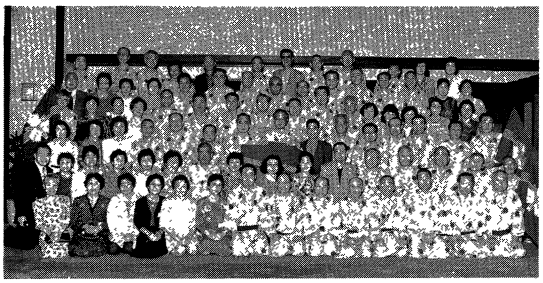
サンプラント工業株式会社
北　陸　工　場
〒924　石川県松任市旭丘１－９
TEL（0762－75－1171）
FAX（0762－75－6113）
■事業内容―冷凍食品加工機械および一般食品加工機の製造販売
専務取締役　下　川　憲　史（泉丘６期）

【泉丘７期（昭和30年卒業）もう60会】

泉丘卒業40周年記念・第７期生同窓会が1995（平成７）年６月17日、山中温泉・すずや今日楼で盛大に開催した。90余名が全国より参集し、来賓として恩師６名のご参加をいただいた。寺西栄一君の司会によって物故者のご冥福を祈り黙祷の後、石井菊雄君の挨拶で開会、次に来賓の西野哲也先生のご挨拶、東京代表の松本良雄君の音頭で乾杯、そして懇親会に移り、同期会は大いに賑った。加茂正則君が、在学中の１年から３年までのクラス別の懐しい写真の拡大版を30枚持参してくれたが、あまりにも希望者多くジャンケンで配布した。

懇親会も中締めにちかずき、当時応援団長の高野潔君のリードで出席者全員で校歌、応援団歌を大合唱。そして遠く台湾からかけつけた村田静夫君のスピーチ。最後に東出文代さんによる一本締めで閉会し、３年後の再会を誓って散会した。

また同日午前７時より、辰の口町の白山カントリークラブ松風コースにて第23回泉丘７期グリーン会（会長小倉周一郎君・会員36名うち女性３名）ゴルフコンペが行われ、竹腰恭一君が優勝した。（水谷昭記）



【泉丘９期（昭和32年卒業）34Ｈ同窓会】

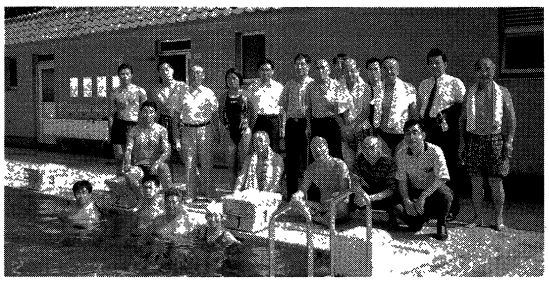
昭和32年３月に卒業した泉丘９期34Ｈ生一同は、担任だった西野哲也先生が平成７年秋、勲４等瑞宝章を受章されたのを祝って祝賀会を開いた。受賞は先生の長年の教育界での御功績に対してのもの。香炉にも造詣の深い西野先生に和宗陽斉作の輪島塗り香炉を贈ってお祝いし、懐旧談に花が咲きました。

西野先生は現在は悠々自適に過ごしておいでです。

【水泳部ＯＢ会「泉泳会」報告】

炎天のさる８月13日（1995年）の昼下り、母校プールは地元はもとより全国各地より集った壮若男女の河童達による水飛沫が揚り、さながら「ドリーム　オブ　プール」の感。

このプールは、金沢一中が本多町から現在地に移転した1937（昭和12）年に造られた「あのプール」を1991（平成４）年学校当局及びPTAと同窓生らの尽力で大改修され装いを新たにしたプールである。金沢一中の水泳部は、本多町時代の1928（昭和３）年に創部され、爾来練習プールの変遷はあれど、その伝統と、1960（昭和35）年ローマオリンピック200m平泳銀メダリスト大崎剛彦氏（泉丘９期）らを輩出した実績は脈々と今に引継がれている。



1965（昭和40）年中上正氏（一中56期・泉丘２期）らの発起により水泳部卒業生を主体に現役と顧問教官など関係者を加えて「泉泳会」が発足した。（現会員約350名）

当日は、原則３年毎に行われる泉泳会の第10回総会が開催された。林繁夫会長（一中44期）が自らの体験に基づき戦後の日本水泳界の流れから今後の展望までの講演があり、ついで中島実常任委員長（泉丘11期）の会務報告、林繁夫会長の再選、石田憲二新常任委員長（泉丘18期）以下14名の新役員を選び、今後の運営につき意見を交換した。最後に現顧問宮崎忠夫先生から母校の現況と現役部員の活動状況の報告があり、総会を終了し一旦散会。夕刻場所を金沢駅前の「ガーデンホテル金沢」に移し、賑やかに懇親を行った。なお泉泳会の連絡先は以下の通り。（泉丘７期・白尾三樹記）

本部　石田　憲二　0762―43―7155
　　根布　　寛　0762―61―3760
関東　白尾　三樹　0474―45―2614
関西　白山　光子　06―327―9879

有限会社　辻　管　工

〒920－11　石川県金沢市鈴見台５―12―27

TEL(0762－３２－３３８０) FAX(0762－６４－０７５１)

■事業内容―ガス管、水道管継手工事専門

代表取締役　辻貞夫（泉丘６期）

めざせ甲子園！

野球部ＯＢ会バッティングケージを贈る

「めざせ甲子園頑張れ泉丘高校」の願いを込めて一泉野球部OB会（会長山本道生・一中54期）では、自主トレーニング用のバッティングケージを母校に寄贈し1996(平成８)年３月23日の贈呈式が行われた。

泉丘高校野球部は、1963(昭和38)年以来甲子園の土から遠ざかっている。OB会は無論のこと、同窓生すべてが母校野球部の甲子園出場を待ち望んでいる。昨年の関東一泉同窓会総会でも“思い出の甲子園”をテーマにするくらいその期待は大きい。

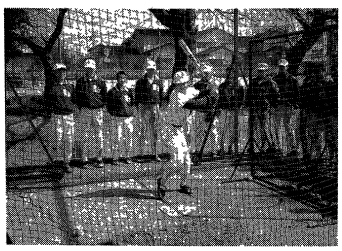
昨年の新人戦で敗れたとき、何とか甲子園出場を実現したいと若き谷口圭史野球部新監督（泉丘39期）は、拙宅へやってきた。「どうしてもバッティングケージが欲しい」との切実な訴えだった。早速、役員会で相談し、12月の総会にはかったところ、満場一致で協力しようと承認された。

このバッティングケージは、GBN—50というおりたたみ式の鳥篭タイプ（全長24m、幅４m、折りたたんだ全長3.5m)。キャスター付きで、移動にも便利なものである（約150万円)。

昨年９月、学校側も古びていたピッチングマシーンを高性能のものに更新し、野球部員一同、快音に闘志をみなぎらせ、たゆまぬ練習の毎日である。甲子園への夢も遠くはないだろうとの空気が漂う。

「頑張れ泉丘高校」の願いを込めて贈られたバッティングケージの導入で、主将中村允君を始め部員一同、「めざせ甲子園」への決意を更に固めていた。

この30年間、何度か甲子園出場のチャンスはあった。実力は紙一重の差である。結局、投手陣の薄さが敗因につながっているようだ。２年後には泉丘高校となって50年である。これを契機にひと暴れしてほしく、また甲子園の夢を叶えさせてやりたい。同窓生各位の応援もお願いしたい。野球部が強くなれば、おのずと他の競技も強くなると思う。文武両道、一中泉丘スピリットで頑張ってほしい。



球場を
囲む大樹の
開花待つ
（山本道生記）

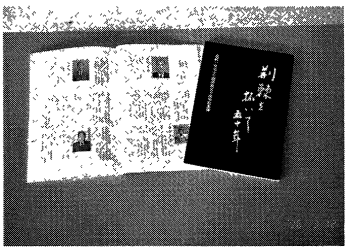
五三の会卒業50周年記念誌
『荊棘を拓いて五十年』発刊

一中53期生の集い「五三の会」は平成７年秋、卒業50周年記念誌『荊棘を拓いて五十年』を発行し、わが国戦後の歩みとも重なる50年の節目を飾った。

同誌は、Ｂ５判で180ページ。標題は、一中校歌の一節「世の荊棘を拓くべし」にちなみ、いばら道を切り開いてきた53期生の自負と心意気が込められているもの。在校当時の写真集をはじめ、各々の遍歴、随想など４部構成となっており、卒業生200人のうち消息のつかめている183人に呼び掛け、集まった延べ146編を、全員の写真入りで掲載している。

「最も多感な思春の時期を共に過ごし、しかも、戦争の激化とともに、そう遠くない先に漠然と死を予感した年月を共に生きた記憶は、今もなお鮮烈な思い出となって残っている」(発刊にあたって・四位例章氏)「我々は太平洋戦争が激化する中、全員が４年で卒業した唯一の学年。我々こそ、最もふさわしい昭和の語り部」(編集後記・高川義一氏）とあり、各氏が在校時代の戦時の思い出、現在の心境を綴っている。

予科練での猛訓練に耐え、先輩の特攻隊を見送り自分たちも遺書をしたためていざ出撃という朝、終戦を知らされた体験や、勉学よりも軍需工場への勤労動員として過ごした日々、戦禍で失った家族や友人への追悼、戦後の混乱期、復興と経済発展の中、それぞれに生き抜いた同期生の、密かな自負と変わらぬ友情が伝わってくる、記念の一冊である。



真柄建設株式会社
社長 真柄敏郎
〒920 石川県金沢市彦三町１丁目13—43
TEL（0762－31－1266） FAX（0762－61－3230）
■創　　業—明治４０年
■資 本 金—４３億２，１５７万円
■事業内容—総合建設業

64年振りに父の出自が判明

村上邦夫さんからの手紙

私は56歳になるこの歳迄、自分の父親の顔を知らずに生きてきた。

父村上久吉は、1944（昭和19）年12月9日ニューギニアのビアク島にて戦死している。それは私が5歳の時の事です。父には私を頭に幼い3人の子供がいた。しかし福井戦災に会い、全てを失い、母と3人の兄弟はそれぞれ別れ別れになり、生きていかねばならなくなった（お陰様で現在私たち兄弟は皆元気で暮している）。

最近になり私の養母の遺品の中からボロボロの一枚の紙片が出てきた。解読するのも困難であったが、どこか惹かれるものがあり、ルーペ片手に家族総出で読み明かした。どうやらそれは父が福井県庁の職員であったという身分証明書らしいと解り、早速県庁に問い合わせたところ履歴書が保管してあるとの事で、皆驚嘆した。

それには金沢第一中学校の卒業証書が添付されており、父が貴校の42回卒業生である事が判明した。なにせ64年余りも昔の事故、ためらいも大きかったが、一中といえば名門校で歴史も古いのではないかと思い、早速問い合わせしたところ、同窓会事務局の正村様がとてもご親切にお骨折り下さったお蔭で、いろいろな資料や、写真等を頂く事ができ、感謝の言葉も見つからない程嬉しかった。又、父親と同期の諸江敏夫様も、方々手を尽くして下さり、多くの情報を提供して下さった。本当に有難いことである。

こうして私は56歳にして初めて父親の顔を見、父親の存在を知ることができたわけである。写真の中の父は少し微笑んでいる。驚いた事に、私の息子によく似ている。自分たちが何も知らなくても私たちには、父の血が流れていた。何だか気恥かしくもあり、誇らしくもあり、そして嬉しい。

一枚の古びた紙片は、私達に多くの幸せをもたらしてくれた。今迄知るすべは無いと諦めていた父の事を多くの方達の暖かいお気持ちにより知ることが出来た。自分達の先祖を知り、敬える事の有難さも痛感した。そして、今日の私達のある事の不思議を感じ、生きている事の幸せを噛みしめている。この度父を知ることで嬉し涙も流したが、悔し涙も多く流して来た。若くして志半ばにして逝った父の分も家族の皆が一生懸命生きて行きたいと思っている。

父が共に5年間を過ごした方々が、こんなにも人情豊かで、素晴らしい仲間達であったことを羨ましく思う。父も一中卒業生であることを誇りに思い静かに眠っていることだろう。

同窓生の皆様方には益々お元気でご活躍されますこと、心よりお祈りしてお礼の言葉にかえたいと思います。

（村上久吉氏は一中42期・昭和10年卒業、瓢箪町学友区、此花町小卒業。一中在籍中の住所は堀川間之町44、卒業とともに福井県庁土木課勤務。なお、村上氏に関してお心当りの方は同窓会事務局へお知らせください。）

「IEEE金メダル」を受賞して

—中40期　**森田正典**

昨年の6月に私は図らずも“1995IEEE MEDAL FOR ENGINEERING EXCELLENCE”をワシントンD.C.で受賞しました。IEEEは“The Institute of Electrical and Electronics Engineers”（電気電子学会）の略でコンピューター・半導体・通信・重電から家電までの広い範囲を含み、世界の120カ国に32万人の会員を有する電気関係で世界最大の有名な学会です。

この学会の賞には、プライズ、アウオード（銀メダル）、メダル（金メダル）など色々ありますが、メダルはその中でももっとも権威ある賞であり、毎年11種類の金メダルが授与されます。“MEDAL FOR ENGINEERING EXCELLENCE”はそのなかの一つで、技術の応用で人類社会に顕著な貢献をした人に与えられます。なお、この賞の受賞者は日本人では私が最初であります。

今回の受賞の理由は、「高感度受信方式と広帯域ディジタルマイクロ波通信方式に対する先駆的貢献」であります。

高感度受信方式は世界中の衛星通信地球局で広く使用された方式であり、また、高感度受信方式の発展成果ともいうべきディジタル無線通信方式は、皆様の御高承の通り、現在の無線通信の実質的な標準方式であります。

私がNEC（日本電気）で、有能な協力者と理解ある客先に恵まれて、これらの方式を世界に先駆けて開発するとともに、世界中に輸出し、普及させた功績が評価されたものと考えます。

日本がこれらの重要な技術において世界の先駆者であった事実が国際的に確認・評価されたことは、兎角独創性に乏しいと批判されている日本人にとって、大変意義深いことと思いましたので、ここにご報告させて頂く次第でございます。

「一泉文庫」

平成７年度中に図書館の「一泉文庫」へ寄贈頂いた同窓各位の著書は以下の通りです。ご寄贈頂いた方々に厚く御礼申し上げます。

寄贈者	著書
永井柳太郎（一中６期）	世界政策十講（購入） 英人気質　思い出の記（購入）
池田　星爾（泉丘６期）	原風景の海―詩集 ―第５回日本海文学大賞―
成　奎昌（泉丘４期）	偶像の裁断
野村理兵衛（一中33期）	ZAMENHOFA EKZEMPLARO （エスペラントの語法と表現の辞典） ―国際エスペラント会議組織委員会賞―
戸部新十郎（一中51期）	富田流秘帖―前田太平記（上・下）
乗杉　嘉壽（一中５期）	乗杉嘉壽遺文集 乗杉嘉壽遺文集（補遺）
橘　礼吉（一高）	白山麓の焼畑農耕　その民族学的生態誌 －第34回柳田賞受賞－
同期会誌（一中53期）	荊棘を拓いて五十年
杉森　久英（一中36期）（相坂一成氏・泉丘４期寄贈）	能登・あわてるな一癖斎・一癖斎放言・大谷光瑞・毛皮を買うヴィーナス・椰子の木陰・明治天皇・近衛文麿・夕陽将軍・小説・石原莞爾・風雲を呼ぶ男・俠骨・荒野に骨を曝す・食後の雑談

＜一泉桜美会活動予定＞

第20回夏の小品展

とき：７月18日（木）～７月23日（火）

会場：下本多町北陸電力　エルフ金沢

第24回桜美会展

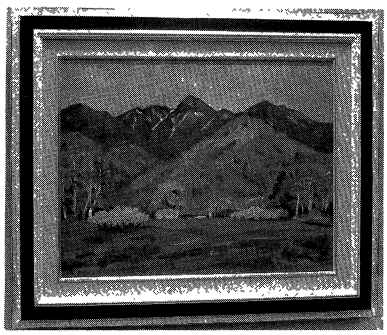
とき：８月29日（木）～９月３日（火）

会場：香林坊大和

事務局：藤井　肇（泉丘４期）☎41―3641

判　三教（泉丘４期）☎52―8309

高川義一（一中53・泉丘２期）☎22―0446



「八ツ岳早春」
高川　義一

＜お願い＞

本誌『一泉』の発行は広告掲載の収入で賄われております。発行の都度、同窓各期に４枠（１枠３万円・12万円）のご協力をいただき、会員への無料配布が可能となっているものです。

各期の代表委員の方は、お手数ですが『一泉』が、より多くの会員に渡るよう、出来る限り全会員へご送付頂ければ幸甚です。同窓生のコミュニティ誌『一泉』の広告・配布に、今後ともいっそうのご理解とご協力をお願いいたします。

なお、次号（第25号）の広告は泉丘７期、８期有志のご協力が見込まれています。

あとがき

1995年は戦後50年。世界史の視座で明治・大正そして昭和の歴史認識を新たにする機会も多かったかと思います。戦中・戦後の混乱期に金沢一中に在籍された諸先輩には、一入感慨深いものがあったのではと拝察します。

1945年３月、勤労動員先の愛知県刈谷の軍需工場で卒業式を迎えた一中52期生、この年、軍事措置で４年卒業となった53期生。敗戦の年に誕生した人が多い泉丘16期生は50歳。敗戦の翌年小学校へ入学した泉丘10期生。そしてこの３月、一泉創立100周年の1993年に入学した泉丘48期生398名と通信39期生97名を一泉同窓会の新入会員として迎えた。

1998年は、泉丘創立50周年・一泉創立105周年。一中校舎が本多町から泉野出町の現在地へ移転後の最初の卒業生・一中45期は、卒業してから60年、還暦ということになる。

前置きが長くなりましたが、『一泉』第24号をお届けします。今回も泉丘卒業生の投稿が少なく、通信は皆無でした。随筆（700字以内）・所感・会合報告など、どしどしお寄せください。また、『一泉』・一泉同窓会にたいするご批評・ご意見・ご要望も賜りたく存じます。よろしくお願い申しあげます。

『一泉』編集室
正村　健三（泉丘４期）　浅香以都子（泉丘10期）
小林　弘子（泉丘12期）
題字・坂野　雄一（一中54期）